

研究主題「社会的事象に課題意識をもち、他者と共に解決しようとする意識を 高める指導の工夫ー地理的分野『日本の諸地域』において、自然災害・ 防災の視点を活用し、課題の解決策を考察、構想する学習を通してー」

東京都教職員研修センター研修部授業力向上課
江戸川区立瑞江第二中学校 主任教諭 今川 健治

第1 研究のねらい

公民としての資質・能力の一つである「平和で民主的な社会の実現、推進に向けて主体的に参加、協力する態度」を、中学校社会科全体において育成することが重要である。このことが、中学校学習指導要領解説社会編（平成29年7月）（以下、「解説社会編」と表記。）に示されている。中学校社会科においては、地理的分野及び歴史的分野の基礎の上に公民的分野の学習を展開することとされており、公民的分野のみならず、地理的分野及び歴史的分野においても、公民としての資質・能力について系統的な指導を推進することが必要である。さらに、「平和で民主的な社会の実現、推進に向けて主体的に参加、協力する態度」については、社会的事象に課題意識をもち、他者と共に課題の解決策を考察、構想する指導を行うことで、その意識を高めることができると考えた。この指導において、自然災害・防災の視点を取り入れることとした。自然災害・防災は、生活する上で向き合う必要のある身近な課題であり、他者と共に取り組むことが重要だからである。このことから、より効果的な視点として位置付けた。

なお、本研究では、地理的分野において社会的事象に課題意識をもち、他者と共に解決しようとする生徒の意識を高める系統的な指導ができるよう、単元指導計画を開発することとした。地理的分野「日本の諸地域」において、自然災害・防災の視点を活用し、他者と共に課題の解決策を考察、構想する指導を行うことによって、社会的事象に課題意識をもち、他者と共に解決しようとする生徒の意識を高めることをねらいとし、本研究主題を設定した。

第2 研究仮説

地理的分野「日本の諸地域」において、自然災害・防災の視点を活用し、他者と共に課題の解決策を考察、構想する指導を行えば、社会的事象に課題意識をもち、他者と共に解決しようとする生徒の意識を高めることができるであろう。
--

第3 研究の内容と方法

1 基礎研究

- ・ 社会科の目標には、「課題を追究したり解決したりする活動を通して、（中略）公民としての資質・能力の基礎」（中学校学習指導要領（平成29年3月告示））を育成することが示されている。
- ・ 課題を追究したり解決したりする活動について、「主体的・対話的で深い学びが実現されるよう、生徒が社会的事象等から学習課題を見だし、課題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し、追究結果をまとめ、自分の学びを振り返ったり新たな問いを見いだしたりする方向で充実を図っていくことが大切である」（解説社会編）と述べられている。
- ・ 「地理的分野の学習において主体的・対話的で深い学びを実現するために、社会的事象の地理的な見方・考え方に根ざした追究の視点とそれを生かして解決すべき課題（問い）を設定する活動が不可欠である」（解説社会編）と述べられている。

以上のことから、社会科の学習では学習課題を設定する活動が、課題を追究したり解決したりする活動の第一歩であり、不可欠であると考えた。

2 調査研究

令和3年8月、都内公立中学校6校に所属する社会科教員16名及び都内公立中学校1校に在籍する生徒130名を対象に意識調査を実施した。

教員対象の調査(図1)では、「社会で起こっている出来事に課題意識をもたせる指導をしていますか」という質問に対する肯定的な回答の割合は、93.8%であった。一方、生徒対象の調査(図2)では、「東京都が抱える課題に関心がありますか」という質問に対する肯定的な回答の割合は、56.2%であった。これらのことから、教員が社会的事象に課題意識をもつことができるよう指導をしている割合と、生徒の東京都が抱える課題に対する関心の割合に開きがあるという現状が分かった。

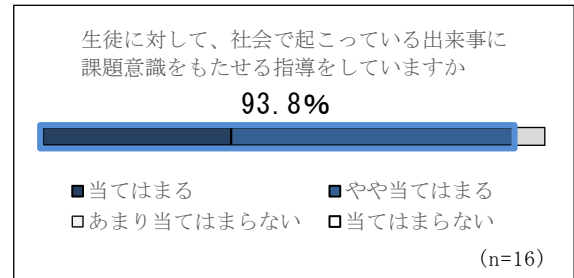


図1 社会科の指導に関する教員対象の意識調査

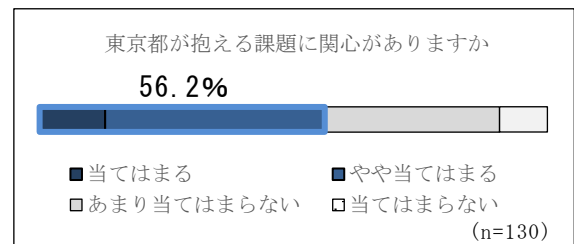


図2 検証授業前における生徒対象の意識調査

3 開発研究

○ 自然災害・防災の視点を活用し、他者と共に課題の解決策を考察、構想する学習を位置付けた単元指導計画の開発

社会的事象に課題意識をもち、他者と共に解決しようとする生徒の意識を高めるため、地理的分野「日本の諸地域」において、自然災害・防災の視点を活用し、他者と共に課題の解決策を考察、構想する学習を位置付けた単元指導計画を開発した。

日本で起こる主な自然災害と防災対策をまとめた「自然災害・防災対策一覧シート」(図3)を用いて整理した、地理的分野「日本の諸地域」で取り上げる自然災害・防災に関する事項と、自然災害・防災の視点を活用し、他者と共に課題の解決策を考察、構想する際に用いる地理的な見方・考え方を働かせた問いを単元指導計画(表1)に位置付けた。図3 「自然災害・防災対策一覧シート」(一部抜粋)

主な自然現象	主な自然災害 (自然現象により生ずる被害)	主な防災対策	
		ハード面 (施設や設備等による対策)	ソフト面 (情報、訓練等による対策)
地震	地盤の陥没・沈降、地割れ	免震性・制震性を高めた建築物等の整備、都市機能の分散	ハザードマップの活用、最新の災害情報・気象情報の確認
	土砂崩れ	砂防ダムの設置	
	津波	防波堤の整備、防波林の整備、津波避難タワーの設置、かさ上げ、高台への移転	
	地盤の液状化	液状化対策をした地盤や建物	
大雨、集中豪雨 【機関、会場に使うものを含む】	洪水による浸水	堤防の設置、地下貯水池の設置、排水路の設置、ダムの建設、防災公園の整備	住民参加の避難訓練の実施、防災教育、被災の軽減を繰り返すこと、被災の遺構の保存
	土石流	砂防ダムの設置、湧き出しの設置	
	地すべり	護岸、補修	
	崖崩れ	崖崩れ防止対策	
低気圧の接近 【台風等】	暴風	防波堤の整備、防波林の整備、水門の設置	
	台風、竜巻	防災用の避難、伝線がなげられ(高圧電線での花壇に倒れた高い植木等)	

他者と共に課題の解決策を考察、構想する際、生徒が課題意識をもった課題の解決策について、自分の考えを基に他者の考えとの相違点や考えの根拠に質問するなど、グループで対話する活動を設定した。この活動により、自分の考えを広げ深め、他者と共に解決する重要性に気付くなど、他者と共に解決しようとする意識が高まるようにした。さらに、「単元見直し・振り返りシート」(図4)に学習課題のまとめや振り返りでの気づきを毎時間記述する活動を設定した。この活動により、教員の助言等を基に自らの学習を調整しながら単元の学習課題の解決を図ることができるようにした。

単元見直し・振り返りシート (2024年●●月●●日～●●月●●日まで)

単元の学習目標

単元の学習過程

学習時間	学習内容	学習の振り返り
1	(1) 単元の学習目標に対するまとめ	(2) 学習を振り返っての気づき、疑問、さらに知りたいこと
2	(1) 単元の学習目標に対するまとめ	(2) 学習を振り返っての気づき、疑問、さらに知りたいこと
3	(1) 単元の学習目標に対するまとめ	(2) 学習を振り返っての気づき、疑問、さらに知りたいこと
4	(1) 単元の学習目標に対するまとめ	(2) 学習を振り返っての気づき、疑問、さらに知りたいこと
5	(1) 単元の学習目標に対するまとめ	(2) 学習を振り返っての気づき、疑問、さらに知りたいこと

単元の学習目標に対するまとめ 【1から5までの学習を基に、考えよう。】

○○地方の学習を振り返り、よりよい学習づくりに向けて大げな考えを述べよう。

図4 「単元見直し・振り返りシート」

「社会的事象に課題意識をもち、他者と共に解決しようとする意識を高める指導の工夫
 ―地理的分野『日本の諸地域』において、自然災害・防災の視点を活用し、課題の解決策を考察、構想する学習を通して―

表 1 地理的分野「日本の諸地域」における単元指導計画（全 40 時間）

次	小単元名（時数）	○自然災害〔防災〕に関する事項 ●「自然災害・防災の視点を活用し、他者と共に課題の解決策を考察、構想する問い」【地理的な見方・考え方】
1	日本の諸地域を学ぶに当たって(1)	自然災害・防災の視点を活用して地域的特色を捉えるための導入
2	北海道地方(5)	○大雪による路面の凍結〔ロードヒーティングの設置等〕 ●「北海道地方で起こる自然災害と共に、人々はどのような工夫をしながら生活しているのだろうか。」【人間と自然環境との相互依存作用】
3	九州地方(5)	○火山噴火〔避難シェルターの設置等〕 ●「九州地方で起こる自然災害と共に、人々はどのような工夫をしながら生活しているのだろうか。」【人間と自然環境との相互依存作用】
4	中部地方(5)	○洪水〔堤防の設置等〕 ●「洪水等の自然災害は、他地域と結び付き発展している東海の産業に、どのような影響を与えるのだろうか。」【空間的相互依存作用】
5	近畿地方(5)	○地震〔避難訓練、防災教育等〕 ●「阪神・淡路大震災の経験を生かし、近畿地方はどのような人々の生活や産業の特徴が見られる地域になったのだろうか。」【地域】
6	中国・四国地方(5)	○大雨による土砂災害〔砂防ダムの設置等〕 ●「大雨による土砂災害は、他地域と結び付き生活している中国・四国地方の人々に、どのような影響を与えるのだろうか。」【空間的相互依存作用】
7	東北地方(6)	○地震、津波〔高台への移転等〕 ●「人口減少が進む東北地方では、どのような災害に強いまちづくりが行われているのだろうか。」【地域】
8	関東地方(7)	○地震、津波、洪水〔都市機能の分散、堤防の設置等〕 ●「人口が集中する東京を、災害に強いまちにするために、どのようなことができるだろうか。」【地域】
9	日本の諸地域を学んで(1)	自然災害・防災の視点を活用して捉えてきた地域的特色のまとめ

4 検証授業及び検証授業の分析

(1) 検証授業の概要

小単元「関東地方」における単元指導計画（表 2）を作成し、令和 3 年 10 月から 11 月にかけて、都内公立中学校第 2 学年生徒を対象に検証授業を実施した。特に第 5 時では、自然災害・防災の視点を活用し、他者と共に課題の解決策を考察、構想する指導を行った。検証授業前後における意識調査の変容や生徒の考えなどを基に、開発研究の手だての有効性を検証した。

表 2 小単元「関東地方」における単元指導計画（全 7 時間）

小単元の学習課題	関東地方では、人口集中に伴う課題の解決に向けて、関東地方の特色を生かし、どのような地域づくりができるだろうか。
----------	---

時	各時間の学習課題	学習活動
1	関東地方の人口分布と自然環境には、どのような関係があるのだろうか。	導入 ・人口が集中する東京で起こる自然災害について、荒川の氾濫を例に生活への影響等を予想し、グループで話し合う。 ・「荒川氾濫」（国土交通省）のシミュレーション動画を視聴し、自分と関わる課題に対する意識をもつ。 社会的事象と自分に関わりがあるという意識をもつ学習活動
2	なぜ東京に人口が集中するのだろうか。	
3	東京を中心に人口が集中している東京大都市圏は、どのような課題を抱えているのだろうか。	展開 ・①都心部（千代田区、港区、中央区等）、②臨海部（江戸川区、江東区、大田区等）、③郊外部（多摩市、八王子市等）のいずれかの地域を選択し、その地域で起こる自然災害について考察したことをワークシートに記述する。 ・日本の諸地域における既習事項や提示された資料等を基に、地理的な事象を根拠として、課題の解決策について構想したことをワークシートに記述する。 ・個人の考えを基に、グループで話し合う。 ・学級全体で意見を共有する。 グループで対話し、他者と共に解決する学習活動
4	東京を中心とした東京大都市圏への人口集中によって、農業や工業にどのような影響があるのだろうか。	
5	人口が集中する東京を、災害に強いまちにするために、どのようなことができるだろうか。	
6	関東地方では、人口集中に伴う課題の解決に向けて、関東地方の特色を生かし、どのような地域づくりができるだろうか。	まとめ ・他者の考えを踏まえ、人口が集中する東京を災害に強いまちにするために大切なことについて考察したことを「単元見通し・振り返りシート」に記述する。
7		

(2) 検証授業の分析

生徒対象の調査では、「東京都が抱える課題に関心がありますか」（図5）という質問に対し、肯定的な回答が16.8ポイント増加し、検証授業後では73.0%となった。また、「東京都が抱える課題を解決するために、自分に何ができるかを考えることはありますか」という質問に対し、肯定的な回答が検証授業前では42.2%であったが、検証授業後では61.5%となった。さらに、授業の振り返りにおいて、次のような意見が見られた。

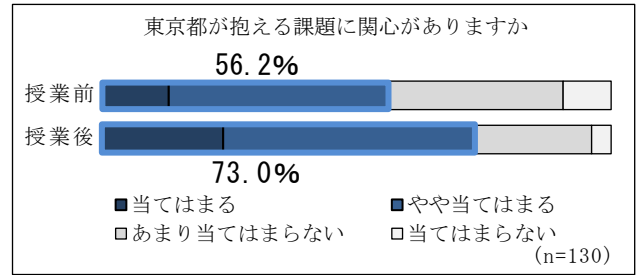


図5 検証授業前後における生徒対象の意識調査

- ・ 行政による災害対策で自分たちの安全が守られるため、行政の対策は自分と関わりのあることだと分かった。
- ・ 災害に強いまちにするため、行政に頼るだけでなく、自分も日常から考えることが大切だと思った。
- ・ 災害を想定してライフジャケットを買っておくなど、行政だけでなく自分にできることをしていく。
- ・ 災害に強いまちにするため、一人一人ができる防災・減災活動に積極的に参加する。

自然災害・防災の視点を活用し、他者と共に課題の解決策を考察、構想する指導を行ったことで、生徒の東京都が抱える課題に対する関心が高まり、その課題が自分と関わる課題であるという意識が高まった意見が見られ、社会的事象に課題意識をもてるようになった。

また、「単元見通し・振り返りシート」の記述から、①他者と共に考察、構想することで、考えが広がった意見や、②他者と共に解決する重要性に気付くことができた意見が見られた。

①	・ 災害対策は行政に任せておけば安心だと思っていた。話し合っ、誰もが安心・安全に住み続けられるまちになるよう、今から計画的に耐震化するなど、行政と共に対策を考えることが必要だと思ふようになった。 ・ 行政による災害対策にあまり関心がなかった。話し合うことで、都民が安心して暮らせる災害に強いまちづくりを目指し、私も都民の一員として行政と協力していくことが大切だと思ふようになった。 ・ 私は臨海部の防災対策を考えた。都心部や郊外部の防災対策を考えた友達と話し合い、災害に強いまちづくりに共通して大切なことは、地形や人口に注目し、行政と一緒に私たち住民も取り組むことだと考えた。
②	・ 友達と協力して様々な意見を挙げていくことが、災害に強いまちをつくるよい意見につながると思ふった。 ・ グループで話し合ったことで、様々な角度から災害に強いまちづくりを考えることが大切だと思ふった。

自然災害・防災の視点を活用し、他者と共に課題の解決策を考察、構想する指導を行ったことで、他者と共に解決しようとする意識が高まるなど、生徒の考えが広がった。また、この指導を行ったことで、生徒が他者と共に解決する重要性に気付き、他者と共に解決しようとする意識が高まった。以上のことから、開発研究の手だては有効であったと考える。

第4 研究の成果

地理的分野「日本の諸地域」において、自然災害・防災の視点を活用し、他者と共に課題の解決策を考察、構想する指導を行ったことで、社会的事象に課題意識をもち、他者と共に解決しようとする生徒の意識を高めることができた。

第5 今後の課題

- ・ 全ての生徒が社会的事象に課題意識をもてるよう、生徒にとって身近な素材や事象を題材とした資料提示、生活経験や既習事項を想起させる発問、学習の振り返りにおける気付きや疑問を生かした学習課題の設定等を取り入れた指導を一層充実させる。
- ・ 指導の汎用性を高めるため、社会的事象と自分に関わりがあるという意識をもつ学習活動や、グループで対話し、他者と共に解決する学習活動を取り入れた指導を地理的分野全体、歴史的分野及び公民的分野においても実践する。